

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-2-3			事業名	青少年科学館展示物整備事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
入場者数	292,854人	351,645人	342,258人	328,168人	352,000人	352,000人	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 従来から実施している観覧者アンケートを、平成21年度も夏と冬の特別展実施期間を中心に実施し、観覧者のニーズや要望を施設の運営改善や事業の見直しに反映している。今後はこれまで蓄積した観覧者の意見を展示物の整備等に活用していきたいと考えている。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)				課題			
<p>○平成19年度に整備した力学系展示物は、3階展示室の中心的な展示物として、設置以来小中学生をはじめとする来館者から高い人気を得ており、市民の科学に対する関心を喚起し、理解を促進するという青少年科学館の機能の増進につながっている。</p> <p>○社会教育委員会議の答申書において、展示物の整備に関する基本的な方向性が示されたことから、今後の展示物の整備をこれまで以上に効果的・計画的に進めていけるようになった。</p>				<p>○答申書を踏まえた展示物の整備を行っていくため、整備に必要な一定の事業費を確保していく必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向							
<p>青少年科学館は、少子化により子どもの数が減少している状況の中、年間34万人前後の観覧者数を維持しており、科学館に対する市民ニーズは大きい。</p> <p>しかしながら、昭和56年の開館から約30年が経過し、老朽化した施設設備とともに、展示物の更新が大きな課題となっている。</p> <p>今後については、引き続き多くの市民の期待に応える事業展開を図っていくとともに、社会教育委員会議の答申書を踏まえ、青少年科学館が魅力ある施設として、今後もその役割を十分に果たしていくため、計画的・効果的な展示物の更新を継続的に実施していく必要がある。</p>							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		1-2-3			事業名	青少年科学館展示物整備事業		
事業費の推移								
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費	40,000	—	—	—	40,000		
	財源内訳	国・道支出金	0				0	
		市の債	0				0	
		その他の	40,000				40,000	
	一般財源	0				0		
予算	事業費	40,000	0	0	0	40,000		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0	
		市の債	0	0	0	0	0	
		その他の	40,000	0	0	0	40,000	
	一般財源	0	0	0	0	0		
実績	事業費	39,900	0	0	—	39,900		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0		0	
		市の債	0	0	0		0	
		その他の	39,900	0	0		39,900	
	一般財源	0	0	0		0		
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					99.8%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)								
《全体》								
[19年度]								
[20年度]								
[21年度]								
[22年度]								